

令和3年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2794600045		
法人名	社会福祉法人 寿光会		
事業所名	グループホーム太寿		
サービス種類	認知症高齢者グループホーム		
所在地	大阪府柏原市太平寺1丁目4番30号		
自己評価作成日	令和4年12月31日	評価結果市町村受理日	令和4年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「家族的な雰囲気の中で優しさと思いやりの心で支援します」GH独自の理念です。個人個人の希望する生活を実現できるようスタッフ一丸となり努力します。

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JieyosyoCd=2794600045-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市東成区中道3-2-34(JAM森の宮事務所2F)		
訪問調査日	令和4年1月25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長年地域に貢献する社会福祉法人が、地域密着型高齢者施設のひとつとして運営している1ユニットのグループホームです。ホームは特養・ショートステイと併設で、3階建ての1階にあります。ホーム内は、利用者職員で作ります「生活感」にあふれ、明るく穏やかな雰囲気です。「周りの人の幸せを願うところに自らの幸せもある」の法人理念の下、「家庭的な雰囲気の中でやさしさと思いやりの心で支援しましょう」をホームの理念に掲げ、生きる喜びが感じられる暮らしを目指しています。コロナ禍で何かと制限がある毎日ですが、料理レクリエーション等の工夫で楽しい時間を作っています。また、家にいた時と同じ、慣れ親しんだ山や、家並み、風景を屋上から眺めることが日課のようになっています。旬の食材や季節感にこだわった食事はホームの自慢のひとつです。調理専門の職員が彩りにも心をこめて作る料理は「色のバランスは、栄養のバランス」と思わせる品々です。1ユニット9名のほのぼのとした温かい雰囲気での暮らしは、人と人の距離感を近くし、馴染みの関係が作りやすく、利用者の穏やかな表情を見ることが出来るグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に職員が目にする所に社会福祉法人の理念、GHの理念を貼り朝の申し送り時には読み上げて意識しながら介護している	法人経営理念「周りの人の幸せを願うところに自らの幸せもある」の下、「家庭的な雰囲気の中で優しさと思いやりの心で支援しましょう」をホームの理念としています。理念はスタッフルームに掲示し、毎朝の申し送り時に職員で唱和し、共有され、生きる喜びが感じられる暮らしを目指しています。利用者の穏やかな表情に、理念の実践がうかがえます。	今後は、理念のさらなる実践に向けて、理念に沿った具体的な目標等を検討されてはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティア団体、レクリエーション団体が定期的に交流していたがコロナ禍となり外部との交流を制限している。	地域との関係づくりには、積極的に取り組んできました。地域密着型特養と合同で行う落語会等の催しには地域住民も参加しています。また、多くの地域ボランティアの協力がありましたが、今はコロナ禍で地域との交流はできていない状況です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	1年に4回広報誌を作成発行している。施設・グループホームの様子や写真をなど撮り知ってもらい認知症へ理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ前は管理者、計画作成者で担当して会議に出てGHの出来事、イベント、サービスなど報告していた、家族様、地域の人のお話を参考に今後の運営に生かしていた	コロナ禍のため、運営推進会議は中止が続いています。	運営推進会議が中止の状況ですが、書面によりホームの状況報告をすることで、更なる理解に繋がることが期待できます。報告に対する意見や要望を聞くために返信用封筒を同封するなどの工夫はいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談事あれば運営推進会議に市役所、包括職員と相談している。柏原市の高齢介護集會に参加して他事業と情報交換などしている	市職員とは連携をとり、情報交換等で協力関係を築くよう取り組んでいます。事故報告や外部評価結果報告も行っています。地域密着型事業所連絡会議には、市の職員も出席し、情報の交換と連携を深めていましたが、現在はコロナ禍で中止となっています。	

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に関してしていない。玄関も開放している。見守りや所在確認をして出来る限り自由に行動している。	鍵をかけないケアに取り組み、日中は玄関や出入口を開錠しています。また、利用者が閉塞感を感じないように、毎日のように屋上に出てみることや、利用者が外出しそうな様子を察知したら、職員と一緒に外出することなどを日常的に意識し、自由な暮らしを支援しています。	次は、身体拘束防止に関する会議や研修の開催が望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については資料を目の付くところにおいてます、またスタッフ同士気をつけて介護について情報交換、注意などして話会う機会を作っています		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者さんの中に成年後見制度を利用されている方がおり司法書士さんが時々訪問されたり、電話連絡を取り合って説明をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時には管理者、計画作成者が本人や家族に説明し不安や疑問には都度対応している。また、入所後も不安がないか確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様には日頃の会話を大切にしており意見や要望があればすぐに対応している。家族の面会時には入居者様の様子を報告し様子や要望を聞いている。	現在、家族との面会方法は、大阪府の「新型コロナウイルス警戒信号」の表示を基準として決めています。面会が制限されている今は、メールで利用者の様子を密に伝えることを心がけています。利用者の暮らしぶりが伝わる写真入りの「太寿新聞」を発行し、家族にも送付しています。また、ブログの積極的な更新で、ホームの様子を発信しています。	

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回のフロア会議の場で意見を出し合うようにしている。また、毎朝の申し送り時に意見を出し合っている。	月1回の会議では、ホームの運営やサービス向上について話し合っています。管理者は職員が日常的に何でも話せる雰囲気作りを大切にし、意見を聞き流さないように心がけています。職員の意見は尊重され、チームワークのよい職場環境を目指しています。職員から提出された企画書に書き込まれた施設長の労いと感謝のコメントは、職員の士気を高めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の働いている姿を観察して、毎日声を掛けて話しやすい環境を作っている。仕事内容も片寄らないように振り分けをしたり、何でも自発的にしたい仕事内容はお任せをしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時にオリエンテーションをしている。一人一人の力量を把握し個々に合わせたトレーニングをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人は管理者、リーダー、法人内のスタッフと研修する機会を作っている。コロナ前は地域密着型施設の会議に参加し情報交換していた。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に自宅訪問し、疑問や不安を聞き出し納得してもらい入所日の日にちも決めてもらう。入所後も本人が困っている事など職員で共有しすぐに対応するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームやお部屋の見学をしてもらい面談で入所時の不安や要望をを必ず聞かせて頂いて関係作りを大切にしている。報告、連絡、相談は密にしている。		

己	自部外	項目	自己評価	
			実践状況	外部評価
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、本人さんと相談し、入居者の情報を開示・共有し基本サービスを決めています。職員には日々の様子を聞いて収集し随時更新している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の出来る事と出来ないことを見極めて出来る事やしたいことは本人に任せたり見守りのなかでしてもらったり楽しんでもらう。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族、ご本人の良い関係が続くように互いの意向に耳を傾け、家族様にも必要な協力をしている。面会時は必ず日々の様子を伝えるようにしている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会に来やすい環境を作っている。時間があればドライブに行く際は馴染みの場所や景色の場所を選んで行くようにしている。また、希望があればフロアの電話を使用し家族などと会話出来るように支援している。	職員は、これまでの馴染みの関係を少しでも継続することが利用者にとって大切なことと理解し、支援に努めています。コロナ禍で制限のある毎日ですが、自宅や地元付近へドライブをしています。また、屋上からは、家にいた時と同じ、慣れ親しんだ山や、家並み、風景を毎日でも見ることができ、馴染みの場所との関係が継続しています。昔取った杵柄を發揮できる食事の準備では、利用者の生き生きとした表情を見ることが出来ます。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の個性を把握しレクリエーションや体操のど皆さんで楽しめる事をしている。また、職員が話題を作り皆さんと談笑している。中には、集いが嫌いな方も居るので個別対応にも力を入れています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたり、特養へ行かれてもお見舞いや面会に伺いご家族から連絡が合った場合でも相談に応じています。	

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価		
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント								
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			一人ひとりの好みや意向を尊重するように心がけており、職員全員で情報共有している。言葉で表現出来ない場合はしぐさなどで確認し本人さんに一番良い方向を家族と相談している。	食事のメニューを決める時の「何が食べたい？」をはじめ、利用者一人ひとりの小さな希望も叶えることを大切に支援しています。日常的な支援やコミュニケーションをとる中で、本人の気持ちを察してケアに活かしています。関わりの中での気づきや発見は、毎日のミーティングで情報の共有を行っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている			入所前に自宅やサービス利用時に訪問し情報把握しています。また、居室に馴染みの家具など持ってきて頂くようにしています。自宅でも趣味もあれば入所しても継続してもらっています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている			個別ケアを取り入れており入居者様の希望に添った過ごし方をして貰っている。レクリエーションや体操など無理強いないようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している			毎月GHミーティング時にモニタリングをスタッフ全員で行い最終計画作成者が清書します、家族様の面会持などに最近の本人さんの様子など伝えて、GH生活の要望など聞かせてもらいます。計画書作成時には本人さんにも説明してサインをもらいます	利用者・家族の思いや希望を尊重した介護計画になっています。支援記録ファイルには、各利用者のサービス内容が詳細に記載され、職員は常に内容を確認しながら支援にあたっています。毎月の会議で利用者一人ひとりのカンファレンスを行い、介護計画に反映させています。計画作成担当者は「医療的な支えと、利用者のホームでの楽しみは何か」を心がけて計画を作成しています。また、信頼により発せられる家族からの、「お任せします」との言葉に応えられるよう努めています。丁寧に記入された支援記録は、利用者の暮らしぶりや表情が見える記録となっています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている			毎日ケア記録を書き小さな変化などは連絡ノートに記載して情報共有している。月に一回フロア会議などで一人一人の見直しをして家族の意見なども反映させて介護計画の見直しに活かします。			

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状況に応じ臨機応変にサービス内容を変更している。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍になる以前は地域のお祭りやボランティアのレクに参加して楽しんでいたのですが現在はドライブや入居者様の好きなお弁当屋さんやパン屋さんなどで注文するなどしている。		
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後もかかりつけ医師と連携し、入居後も本人様と家族の意向を尊重して病院をかえることなく通院している。また、日頃の入居者さんの身体状況を把握し看護師と連携をとり受診が必要であれば家族に相談している。受診については家族同伴が原則ですが急な対応や家族様の都合で同行できない場合は職員が付き添う様にしている。毎朝バイタル測定をして記録に残している。	通常は事業所の医師が往診していますが、併設の施設の看護師が週2回訪問して健康管理など身体状況を確認しています。外部受診をしている5名程の利用者には、家族の都合によっては、職員が同行をしています。ココロのホスピタル受診は事前に確認をし、家族と病院で待ち合わせをして受診の支援につなげています。夜間の緊急時には24時間オンコール体制が整っています。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調に変化などある場合は看護師に報告、相談し指示をもらう。また、家族様にも連絡をとり必要に応じ家族に協力を頂く。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設生活の様子、身体状況など病院に提出する、家族様とも連絡を取り入院状態、経過など情報を収集する。コロナ前は面会にも度々行き確認する、退院持にも病院SWCとDr、看護師とのカンファレンスも必ず行う		
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所説明時に事業所で出来る事を説明して納得してもらっている。重度化した場合については医師、看護師、家族と相談しながらホームで出来る限りの支援を行っています。出来るだけ家族の意向を尊重している。	ホームでは、看取りは行っていません。入居時にホームで出来る支援について説明しています。重度化した場合には利用者・家族の希望に添えるよう医師、看護師、家族と話し合いを行います。希望があれば法人内の特養への入所の支援も行っています。	

己	自部外	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行っていないが事故発生時などの対応や入院時に用意するもの緊急連絡簿など目に入る場所に置いており職員全員が把握している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設全体で年に1回。グループホームで年に2回実施している。水や缶詰など備蓄している。	施設の合同訓練とホーム独自の訓練を行っています。コロナ禍の訓練では、日中に避難訓練をおこないました。避難路の確認、車いすでの対応、車いすの普段の置き場所の確認など、これまでの反省も踏まえた安全対策ができています。	訓練時を利用し、災害時の食料品やその他の備蓄品について再確認し、全員で共有する機会にされては、いかがでしょうか	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重しプライバシーにも配慮した個別支援をしている。言葉遣いやトイレなども周りに聞こえないような声をかけしている。	プライバシー保護の研修では、常に言葉かけに重点に置いています。挨拶、表情、身だしなみ、態度、言葉遣い、など意識して対応しています。利用者に不快感を感じさせる言動を目にしたら、お互い注意し、声をかけ合っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別ケアを大切にしており一人一人の意見の尊重を行っています。出来るだけ気持ちに答えるように支援をしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの意見やペースを把握し個々の生活ペースを尊重し希望に沿った支援を行っています。日々充実してもらうように努めています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとり、身だしなみやおしゃれに気配りしています。お風呂後の衣類など本人が服を選んで着てもらったり起床時なども同様好きな服を選んで着ています。			

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じてもらうために、旬の食べ物や土用の丑の日やお彼岸などイベントの日を大切にしています。また、入居者様に食べたいものをリクエストして食事内容を考えています。入居者さままで家事手伝いが好きな方が多いので(野菜の皮むき、切る、炒める、盛り付け、洗い物、配膳の準備)など交替で職員付き添い、見守りしながらしている。	美味しい食事はホームの自慢のひとつです。食事のメニューは利用者の希望を聞いて作ります。調理は専門の職員を中心に行われ、旬の食材や季節感にもこだわっています。利用者もキッチンの中に入り、できることを活き活きた表情で手伝っています。彩りにも心を配り作られた料理は、「色のバランスは、栄養のバランス」と思える、目にも美味しい出来栄です。料理に伴う音や香りが日常的にあることにより、家庭的な雰囲気より強く醸し出しています。	
i		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家庭の味を大切にしながらバランスの取れた食事を提供。一人ひとりに合った量や嗜好など配慮している。また、毎月体重測定をしているので体重や持病を見ながら量や塩分控えめに提供している。水分など一人ひとり記録に残している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は口腔ケアを徹底している。一人で出来る方も声をかけてしているか確認し出来ない方には全介助している。ケアチェック表に記入している。歯磨きが苦手な方には子供用のモンダミンを使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に応じて自身でされる場合はチェックをしている。トイレは食前食後が基本だけでは、一律決めていない。声をかけて対応している。拒否がある場合は尊重して対応している。出来るだけオムツは使用しないようにしている。	トイレでの排泄を基本とし、誘導する場合もさりげない声掛けで対応しています。自身の排泄状況をメモで教える利用者もいます。各居室にトイレがあることで、プライバシーの確保ができ、排泄の自立にも繋がっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の食事メニューを取り入れたり、便秘の方には牛乳を多めに提供したり散歩や運動をしてもらう様にしている。それでも出ない時は、看護師に報告して下剤を服用してもらっている。		

己	自	部	外	項 目	自己評価		外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夏場は週4回冬は週3にしている。曜日時間は決めずに入る順番は本人様に聞いて意向を尊重している。	夏場は週4回、冬は3回を基本としていますが本人の生活習慣を尊重しています。シャンプーやリンス、石鹸などそれぞれの好みの物を利用し楽しんだり、一番風呂を望まれる方などにも希望を聞き、対応しています。				
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	横になりたいと希望があれば時間等関係なく休息時間を設けている。昼食後など臥床時間を取るようになっているが起きていたい方はフロアにて過ごされたりテレビを観て過ごされている。					
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりのお薬手帳とお薬の内容書をファイルにして職員全員が共有し何を服用しているか把握している。					
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別ケアを心がけているので料理作りをしたい人、散歩が好きな人テレビが好きな方など一人ひとりの楽しみごとを把握してあげるようにしている。					
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブなどする時はどこに行きたいか聞いて目的地を決めている。毎日天気の良い日は施設の屋上へ散歩へ行くようになっているので希望を聞いて気分転換したい人は行くようになっている。また、天気の良い日は屋外で食事会などもしている。コロナ禍になる前は外食や遠足、買い物をしていた。	コロナ禍のため、特別な外出は控えています。屋上での少人数の散歩は毎日欠かさず行っています。屋上では、ジェット音を立てる飛行機を目で追ったり、季節の空色を感じたり、慣れ親しんだ山や、家並み、風景を眺めたりして楽しんでいます。				
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様よりお金小口を預かっているがお金を所持したいと希望がない。以前はお金が欲しいと言う入居者様がいたので家族様に相談して財布とお金を入れて本人持たせていた。					

己	自部外	項目	自己評価	
			実践状況	外部評価
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人さんの希望に沿って家族様に電話をかけて会話をしたり、家族様と連絡の後に入居者様にかわって会話を少しでもしてもらうなどしている。また、年賀状など書かれた入居者様には代わりに投函するようにしている。お手紙やハガキなどは本人へ渡すようにしている。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアは食事が終わるとその都度掃き掃除をしている。清潔を保ち季節にあったしつらえをしている。	季節感を大切に、利用者と共同作業で作成した飾り物などを壁やテーブルの上に飾っています。この季節には、ひな壇に華やかに人形が飾られ、花瓶の花、ドア飾りなどにも心温かい雰囲気があります。また、その日の気分添えるように1人で過ごせる椅子なども用意されています。キッチンからは、食事準備やおやつのおいしゃ話し声なども聞こえてきて家庭的な安心感があります。(コロナ禍のため、入口付近のみ見学)
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有フロアには誰もが過ごせる居場所を作り、一緒にゲームをしたり洗濯物など畳んだりされています。また、一人になりたい時は居室に戻って過ごされたりして自由に行き来ができるように心がけています	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時に使用していたタンスやラジオ、布団も持って来られている入居者様もいます。居室やフロアは基本自由で本人が	入居時には、家族や本人と相談して馴染みの家具、テレビ、ラジオ、写真など持ち込んでいます。本人が安心して気持ちよく過ごせる居室づくりを大切にしています。(コロナ禍のため、聴き取りのみ)
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札をつけて見分けられるようにしています。動作が分からない方には張り紙を貼り、トイレまでの動線には障害物をおかないようにして転倒防止に努めています	